

旅行報告書

会派名 政進クラブ

会派代表者 中村 幸治

平成27年7月30日

旅行者氏名	旅行者氏名
中村 幸治	福田 齊
田口 憲雄	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

記

1 期間 自:平成27年7月14日(火曜日)
至:平成27年7月16日(木曜日) 2泊3日

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
大分県豊後高田市	定住促進事業について
宮崎県日向市	新庁舎建設構想について
鹿児島県霧島市	木質バイオマス発電事業について

会派視察報告書

平成27年7月30日

視察日程

- ・平成27年7月14日(火) 豊後高田市 定住促進事業について
- ・ 7月15日(水) 日向市 新庁舎建設構想について
- ・ 7月16日(木) 霧島市 木質バイオマス発電について

参加者

- ・政進クラブ 田口議員、中村議員、福田議員
- ・公明党 牧下議員
- ・自由民主党 松本議員
- ・政風クラブ 岩阪議員

報告

定住促進事業について(豊後高田市)

- (1) 人口 23,444人(平成27年3月末)
- (2) 一般会計予算 164億8,792万円(平成27年度)
- (3) 事業内容

- ・平成18年度 空き家バンク事業を始める
- ・平成21年度 空き家実態調査
- ・空き家バンク事業の実績(平成26年度)
 - ① 空き家登録軒数 38件(178件)
 - ② 利用希望世帯数 181世帯(685)
 - ③ 利用希望人数 417人(1,546)
 - ④ 契約世帯数 42世帯(142)
 - ⑤ 契約利用人数 62人(232)

()の数字は平成26年度までの累計数

※詳細な事業については別紙資料添付

(4) 感想

- ・将来の人口目標設定がしっかりしている(2021年 30,000人)
- ・トップリーダーの考えを職員が把握している
- ・定住促進のためにあらゆる施策を実行している
- ・担当職員のやる気、本気が伝わってくる
- ・水俣市として定住促進事業については後れを取っているため、あらゆる施策をうつ必要がある

平成27年7月15日(水)

視察先 日向市 新庁舎建設構想について

視察内容

- ・平成19年 新庁舎耐震化検討委員会
- ・平成23年 総合計画後期基本計画に位置づける
- ・平成24年8月 新庁舎整備計画に関するアンケート調査実施
- ・平成24年12月～ 庁舎あり方検討委員会実施
平成25年3月まで
- ・平成25年3月 政策会議で新庁舎建設を決定

◎新庁舎建設事業の推進状況

- ・事業推進体制の構築
 - ①日向市新庁舎建設市民懇談会 (H,25,6~H,26,11)
 - ②庁内検討委員会 (3つの部会を設置)
 - ③市民説明会の実施 (市内7か所)
- ・日向市新庁舎建設基本構想策定 (H,25,8)

基本方針

- ①ユニバーサルデザインを取り入れた人に優しい庁舎
- ②市民サービスの向上を実現する庁舎
- ③協働のまちづくりの拠点となる庁舎
- ④防災の拠点施設となる安全、安心な庁舎
- ⑤環境共生に取り組む地球環境に優しい庁舎
- ⑥日向市の地域性を生かし、周辺環境と調和した庁舎
- ・総事業費 45億円
- ・新庁舎建設基本計画策定 (H,26,6)
- ・市民、職員ワークショップの開催 (H,26,7~11) 各4回
- ・各種団体等との意見交換会開催 (H,26,11)
- ・新庁舎建設基本設計完了 (H,26,11)
- ・日向市新庁舎建設基本設計の市民説明会開催 (H,26,12)
- ・新庁舎建設工事 (H,28~H,29)
- ・平成30年1月共用開始予定

◎感想

- ①庁舎建設には構想を含め相当な期間がかかるので、水俣市としても早急に取り組む必要がある
- ②庁舎建設がスムーズにいくための組織形成を十分に検討することが必要
- ③防災、市民サービス等コンパクトなまちづくり等検討課題をどうするのか

森林整備と本質バイオマス発電事業について

平成 17 年 1 市 6 町が合併して霧島市が発足

- ・平成 17 年合併以降、人口の減少もなく約 13 万人を維持しており自治体の比較が出来る、GDP では製造業出荷額 約 3165 億
商業額 約 1656 億、人口流入客数 約 700 万人
さらに企業、大学が立地しており、まだまだ誘致できる条件に恵まれている

木質バイオマス発電事業については

平成 21 年に経済対策事業として取り組み始め

平成 23 年 3 月 3.11 東日本大震災福島第 1 原発事故発生後

「自然エネルギー発電で 100%まかなう自治体」をスローガンに

平成 25 年 5 月霧島木質発電(株)を設立

平成 25 年 10 月霧島木質燃料(株)を設立

平成 25 年 12 月霧島バイオマス燃料協議会設立

平成 27 年 3 月木質バイオマス発電所火入式

安定した燃料補給体制の確立こそが、バイオマス事業のポイントと思うが、チップの集荷では、他自治体から 7 割の供給をうけておりまたチップの供給補助金として 2000 円/t を 3 年間補助決定にたよるなど建設にも運営にも補助金と視察の価値なしと思う
我街においては経済の合理性の中で、未来の木材の有効活用を考えるべきだと再認識した。

旅行報告書

会派名 政進クラブ

会派代表者 中村 幸治

平成27年11月20日

旅行者氏名	旅行者氏名
中村 幸治	田口 憲雄

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

記

1 期間 自:平成27年11月16日(月曜日)
至:平成27年11月19日(木曜日) 3泊4日

2 旅行先及び用務

旅行先	目的
富山県富山市	農業の6次産業化等について
富山県立イタイイタイ病資料館	イタイイタイ病資料館見学等
富山県氷見市	北陸新幹線開業に伴う観光振興施策等について
石川県七尾市(株)スギヨ	ご当地ヒーローによる食育等企業の社会貢献活動及び企業並びに地域のPR効果等について

会派視察報告書

平成 27 年 12 月 15 日

視察日程

・平成 27 年 11 月 16 日 (月)	移動日		
11 月 17 日 (火)	富山県富山市	農業の 6 次産業化等について	
		イタイイタイ病資料館	
11 月 18 日 (水)	富山県氷見市	観光振興について	
	石川県七尾市	ご当地ヒーロー食育活動について	
11 月 19 日 (木)	移動日		

参加者

・政進クラブ	田口議員、中村議員	真志会	高岡議員、谷口議員
・水進会	小路議員	新緑会	桑原議員
・公明党	牧下議員	蘇心会	塩崎議員
・自由民主党	松本議員	政風クラブ	岩阪議員

報告

農業の 6 次産業化について (富山市)

富山市が目指す都市像はコンパクトなまちづくり。

耕地面積に占める水田の割合は 95.4% でコメ作りが主体である。

農業の課題

- ・農家数の減少 1980 年 15,014 戸が 2010 年 7,958 戸に減少 (40%減)
- ・耕作放棄地の拡大
- ・高齢化

課題への対応として

- ・新たな特産物の栽培
- ・6 次産業化

[取組]

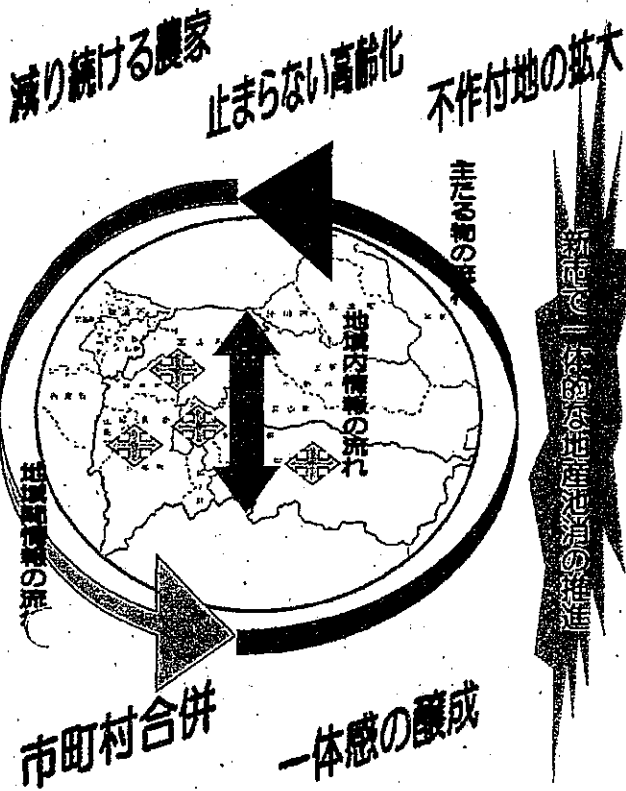
- ・どやまとれたてネットワーク事業 (資料添付)
- ・エゴマの 6 次産業化 (資料添付)

[感想]

- ・地場もん屋総本店を中心にしたネットワークができている。
- ・販売ルートが確立して年間売り上げが安定している。
- ・エゴマについては露地栽培がどうか。
- ・水俣も稼げる農家のネットワークが必要。

イタイイタイ病資料館 (富山市) (資料添付)

とやまとれたてネットワーク事業



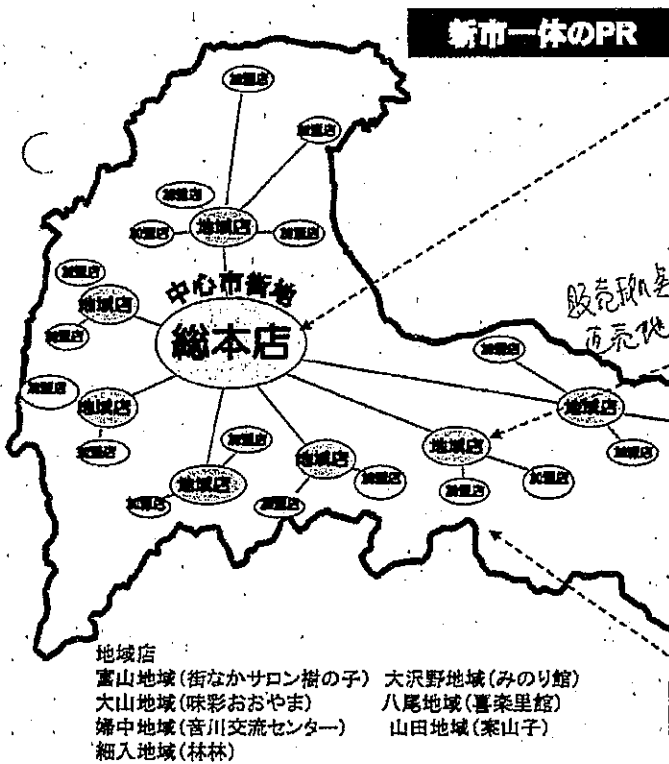
- PR拠点の設置
- 地産地消の情報提供
- 量販店における取組み
- 生産者と消費者の交流活動
- 地産地消を活かした産地づくり
- 観光施設・外食産業における取組み
- 学校・保育所等における取組み
- 地場農林水産物のブランド化推進

ネットワーク推進の効果

- 生産者と消費者の信頼関係の構築
- 消費者ニーズの把握と生産現場への活用
- 「食」や「環境」についての理解
- 農林漁業者の所得機会の多様化

農業の6次産業化等について

とやまとれたてネットワークの概要



新市一体のPR

総本店 (地産地消推進拠点) —1店舗— (H22年度開店)
 中心市街地において地場農林水産物の販売やそれらを食材とした伝承料理の普及・伝承等を通じて、地場農林水産物のPRと販売拡大を図ることにより、地産地消の推進と都市部と中山間地域との交流を促進するとともに、中心市街地の賑わい空間と観光スポットを創出。

地域店 (地産地消PR拠点) —7店舗— (H18年度指定)
 7地域の特色のある四季折々のとれたての農林水産物のPRによる地場産物の流通の拡大と地産地消の促進を図るため、地域に一カ所を拠点施設として指定。指定店(地域店)には「壁掛け」、「のぼり」等を設置しPR拠点として明確化。リレー市等を開催し地域店相互の交流を促進。

加盟店 (地産地消販売拠点) —約180店舗— (H19年度～)
 加盟店(地場農産物を直販している個人又はグループ、インショップ等で公募により加盟要件を満たしているもの)には、「のぼり」を設置し、地場農林水産物の販売拠点を明確化し広く市民にアピールする。
 富山の地産地消を盛り上げる

地場もん屋総本店の概要



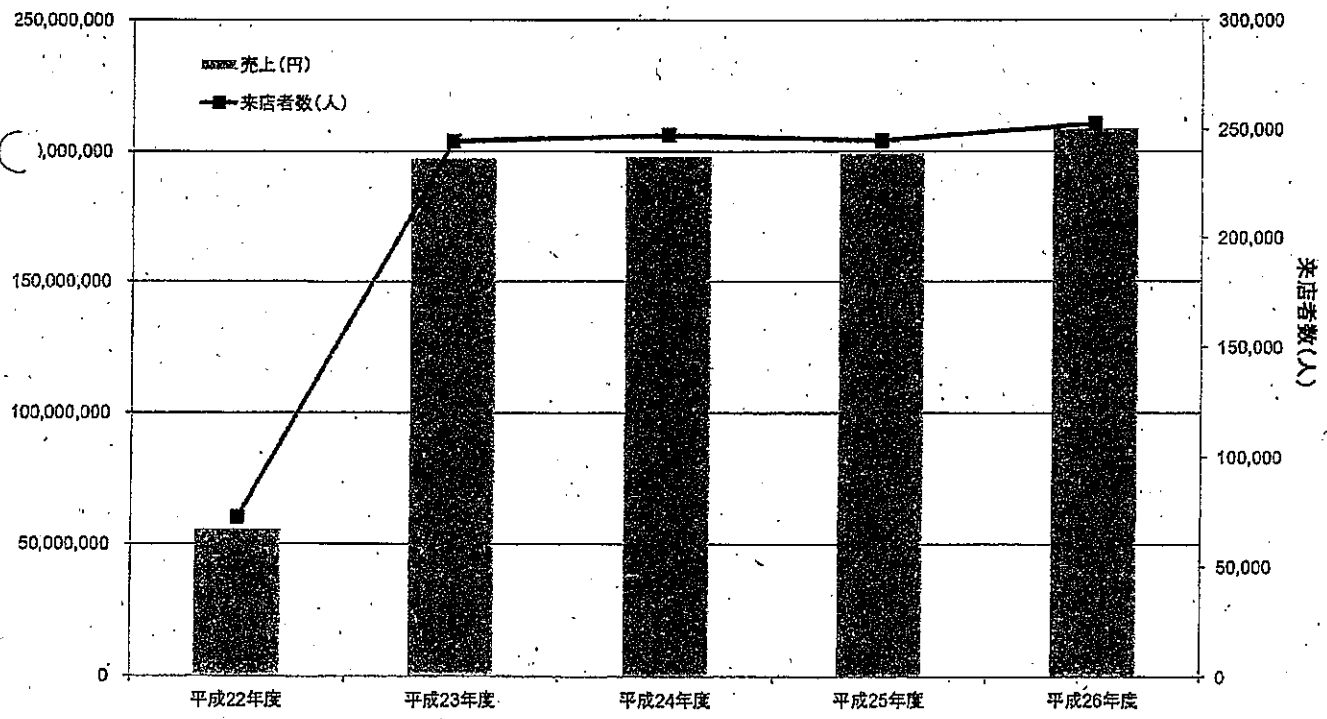
- (1) 施設設置者 富山市
- (2) 所在地 富山市総曲輪三丁目3番地
16号総曲輪ファツシヨンビル
- (3) 構造 鉄筋コンクリート造5階建
- (4) 面積 653.13㎡(1階の一部、共用部分含む)

- (5) 施設構成
 - ① 地場農林水産物PR販売促進エリア
地場農林水産物等陳列販売施設(平台・冷蔵ショーケース・POSレジ、バックヤード(冷蔵冷凍庫等)他)
 - ② 地産地消交流学习エリア
地産地消関連交流学习施設(テーブル、キッチン他)

- (6) 開業日 平成22年10月22日(金)
- (7) 営業時間 午前9時30分～午後6時30分
- (8) 定休日 年末年始(12/31、1/1)

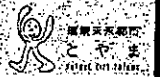
5階	
4階	フォルツァ総曲輪(映画・公演)
3階	まちづくりとやま・富山ビューティカレッジ(専門学校(美容師養成))
2階	富山製菓専門学校(専門学校(製菓衛生師養成))
1階	地場もん屋総本店・飲食店(2店)

地場もん屋総本店の売上と来店者数(開店以降)

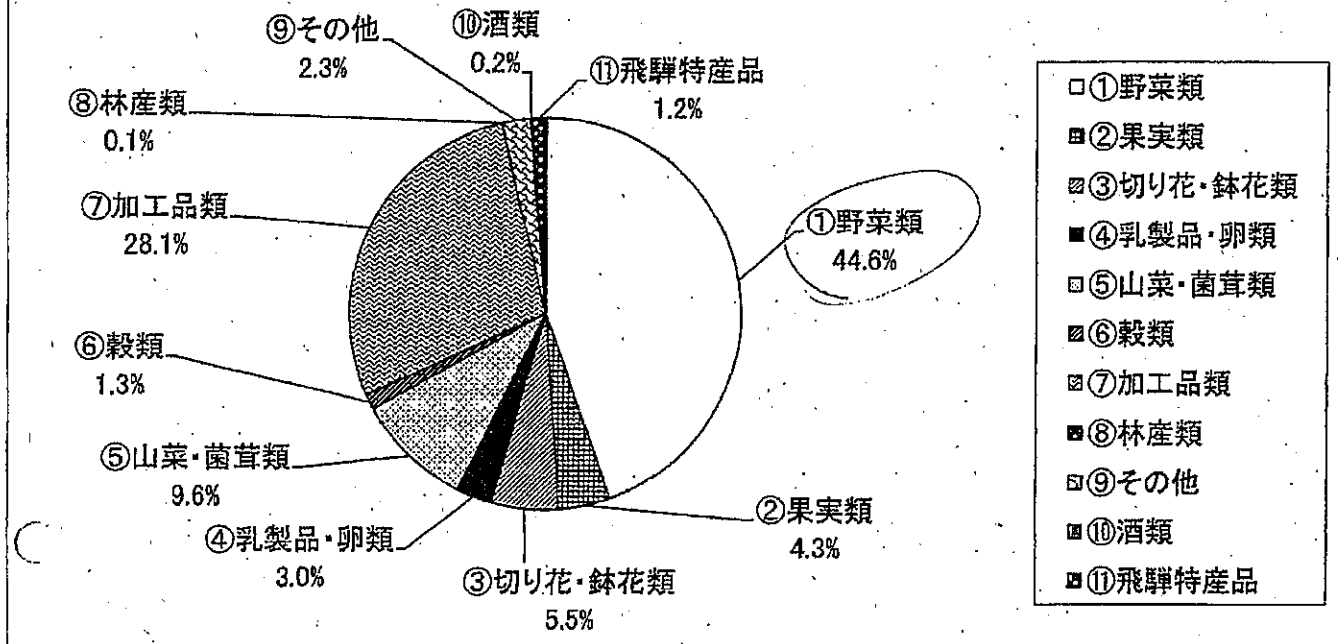


年間売上2億円(54万円/日)、来店者25万人(666人/日)

地場もん屋総本店の売上構成（開店以降）



売上品数別



富山市産品の販売拠点として大きな役割を担う！

市内の農家が行う6次産業化 (No. 1)



米粉パン



いもまんじゅう



シフォンケーキ



フルーツジャム

エゴマ6次産業化について

課題

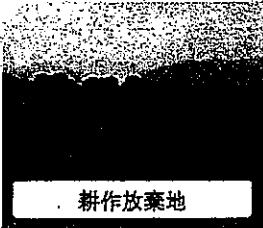
- 農業の衰退(担い手不足、耕作放棄地拡大など)
- 地域経済の活性化(輸出産業の創出)
- 市民の健康増進(生活習慣病の予防)

取組

- 薬用植物の一種であるエゴマの大規模露地栽培
- ソフトカプセル工場でエゴマ油サプリメントを製造
- 生活習慣病予防に資する輸出産業の創出

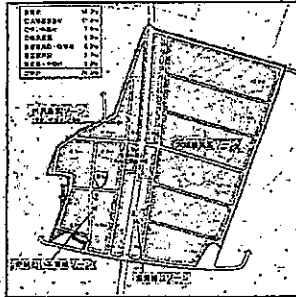
一団の耕作放棄地(24ha)を大規模優良農地に再生

耕作放棄地を市が基盤整備し、大規模優良農地として再生。企業や新規就農者等、意欲的な農業の担い手に農地を貸与。



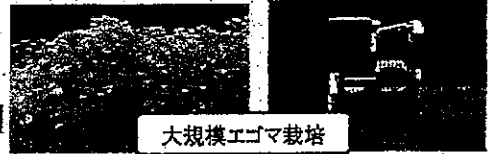
耕作放棄地

総事業費:9.3億円
農業基盤整備促進事業:5.1億円
単独事業:4.2億円



エゴマ大規模露地栽培の推進

再生した農地でエゴマの大規模露地栽培を行なうため、トラクター、定植機、コンバイン等を購入し、農業経営体に貸付。



大規模エゴマ栽培

総事業費:0.9億円
地域再生戦略交付金事業:0.7億円
単独事業:0.2億円

6次産業化の推進

エゴマ油を、高付加価値の健康サプリメントへと6次産業化



サプリメント製造施設整備

総事業費:10億円
地域再生戦略交付金事業:10億円



高齢者・障害者雇用

輸出産業の創出

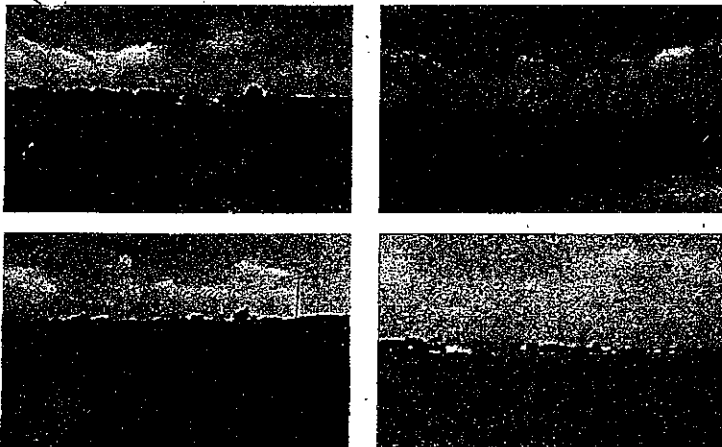
生活習慣病の予防に効果的なα-リブリン酸を豊富に含むエゴマ油を注入したサプリメントを、生活習慣病が蔓延する先進国へ海外展開



元気な高齢者

モデル事業候補地:塩地区の概要

- ・富山市中央南部に位置する平地農村地域
- ・北陸自動車道:富山ICまで約5km
- ・面的に広がりのある耕作放棄地及び不作地の存在(約24ha(土地改良事業未整備))



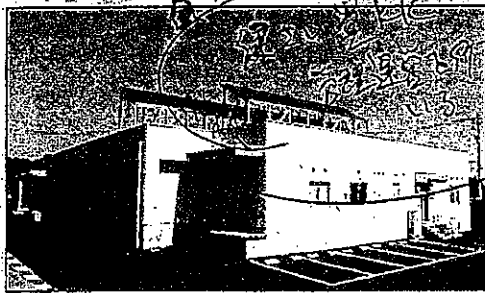
・過去に何度も圃場整備の話が持ち上がったが、用水の水源確保の問題等から集落がまとまらず、実施されなかった。
・過去に民間による開発計画等もあったが農地転用が許可されないことから、開発されなかった。



耕作放棄地・不作付地
が年々拡大

牛岳温泉熱等を活用した植物工場の整備

エゴマの6次産業化を推進するシンボリックな施設として、エゴマの葉を生産する栽培工場を整備(H26.3.25竣工)。室内で管理された生産により、安全・安心かつ安定的な供給が可能。



▲牛岳温泉植物工場



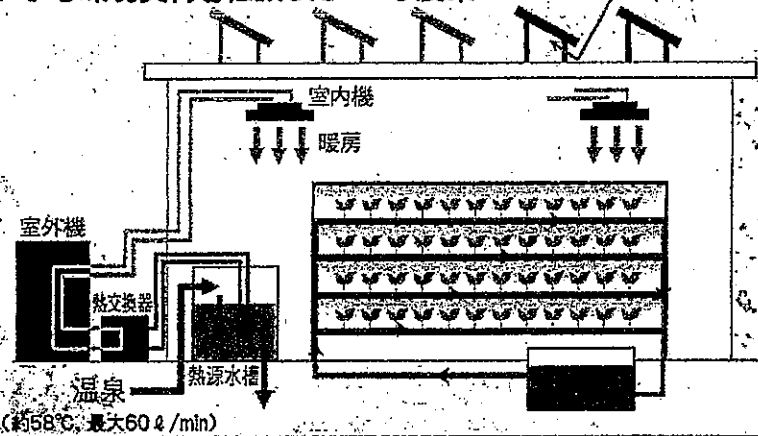
▲栽培状況

農業の6次産業化等について

特徴

- 地域特性である牛岳温泉熱を空調(暖房)に活用
- 両面受光型太陽光パネルによる自家発電
- 植物用LED照明による安定的な栽培

再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化による環境負荷を低減したエコな農業



露地栽培への展開

<露地栽培への展開>

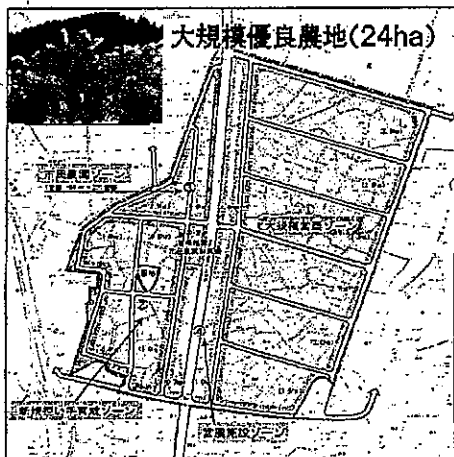
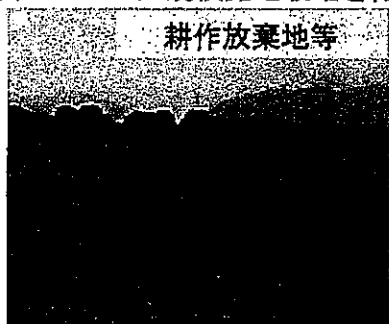
山田地域でのエゴマの定着化に向けた露地の試験栽培や生産性調査等を実施

- H25年度 : 1.2ha
- H26年度 : 2.0ha
- H27年度 : 4.8ha



<他地域への普及拡大>

市内の一団の耕作放棄地等を市が基盤整備し、大規模優良農地として再生し、エゴマの大規模露地栽培を行う。

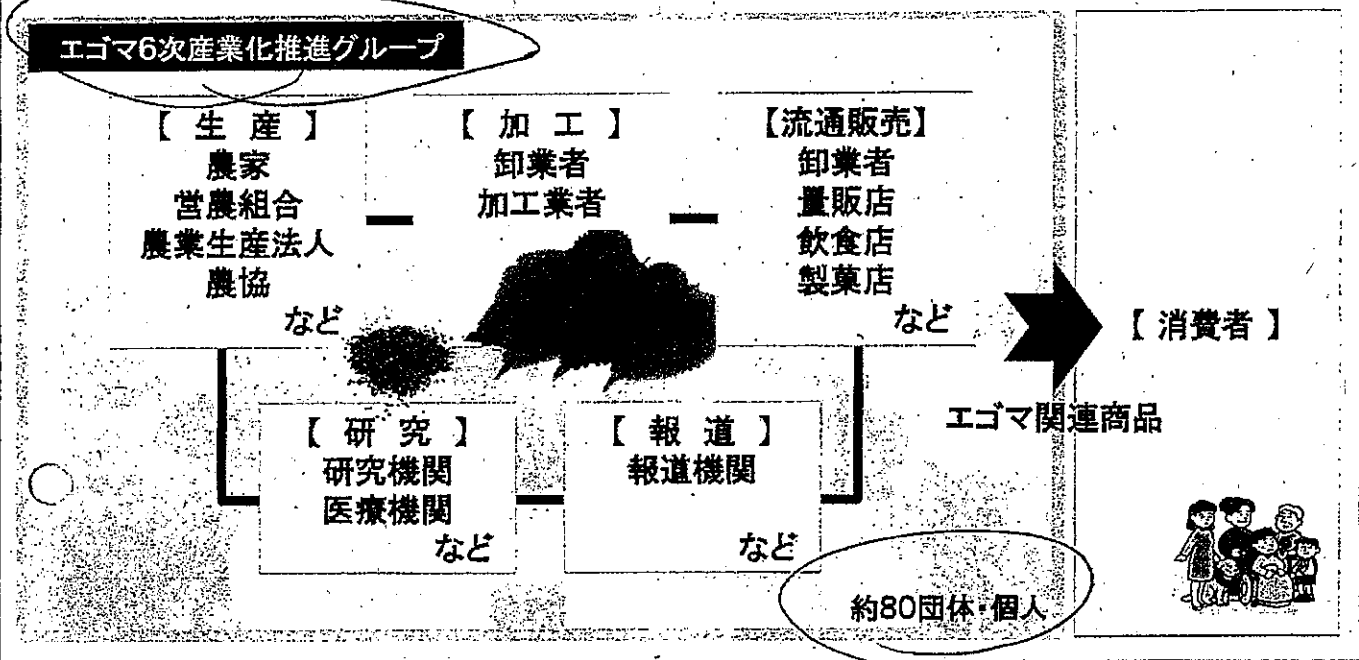


大規模優良農地(24ha)

エゴマの6次産業化推進に向けた組織体制



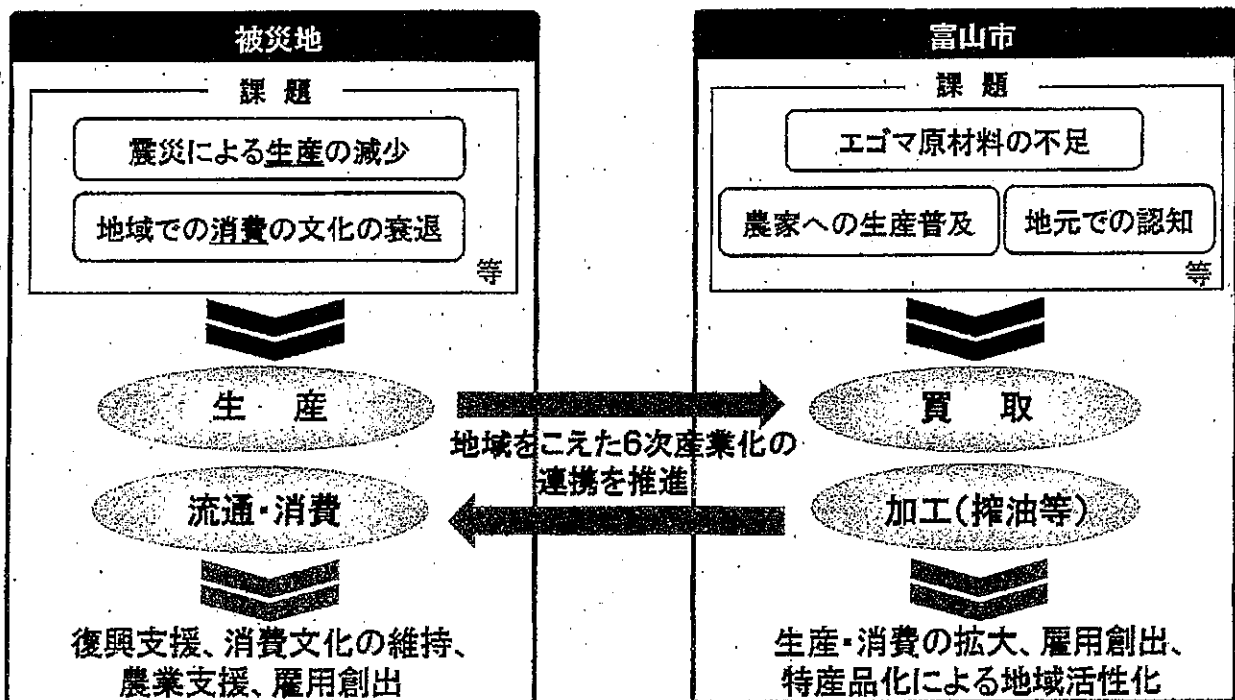
民間事業者が主体となって、生産、加工、流通販売、研究、報道などにかかわる企業・団体・個人で、「エゴマ6次産業化推進グループ」を設立。植物工場を拠点に地域をあげてエゴマの6次産業化を推進。



東日本大震災の被災地域との連携



エゴマの一大産地であった被災地での生産や販売が依然困難である状況を踏まえ、被災地と連携したエゴマの取組みを推進し、被災地の復興支援にも繋げる



イタイタイ病について わかり学んでいただくために

どもにもわかりやすい展示
切なポイントは興味をもって学べるよう工夫しています
ゾオラマに映像と絵本を組み合わせた解説
とわったり、のぞいたりできる展示物
と型スクリーンでの臨場感あふれる映像など

示を理解してもらったための解説を充実しています
資料館スタッフやボランティアによる展示解説
音声で展示内容をご案内する「音声ガイド」……5ヶ国語
展示の概要を冊子にまとめた「展示ガイドブック」……5ヶ国語
*5ヶ国語/日本語、英語、中国語、韓国語、ロシア語
録音をヒントに問題を解きながら学習する「子どもワークシート」
タッチパネル端末でさらに詳しい情報を提供します

示意の各コーナーには、展示パネルよりもさらに詳しい情報を
読いただけのタッチパネル端末を設置しています。

更な体験をされた「語り部」による講話

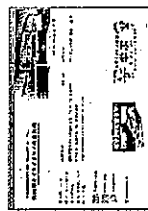
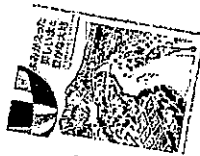
かご家族などで、イタイタイ病の恐ろしさを実感し、多く
運を乗り越えてきた「語り部」の方から、貴重な体験を聞く
が出来ます。(原則10名以上の団体が対象)

校の課外授業の積極的な受入れ

資料館見学の事前学習などに活用できる副
読本を発行
語り部講話や解説付きの展示見学などのメ
ニューを揃えた団体向け学習プランを用意

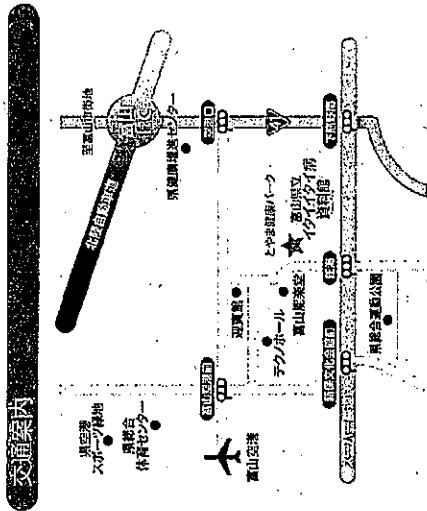
内外への情報発信

イタイタイ病や資料館に関する情報
5ヶ国語に対応したホームページ
で国内外に広く配信します。



利用案内
開館時間：9:00～17:00 (展示室への入室は16:30まで)
入館料：無料

休館日：月曜日 (休日の場合は翌日)、元日
*設備点検その他の理由により、臨時休館とする場合があります



〈車をご利用の場合〉

富山ICから、国道41号線・岐阜方面へ。空港口交差点を右折、「富山迎
賓館」を左折して約400mです(富山ICから約5分)。

〈駐車場のご案内〉

- ① 無料400台
- ② バス等大型車の駐車は、第2駐車場奥のバス駐車スペースをご利用
ください。
- ③ 車椅子利用専用駐車場は、9台あります。身障者手帳など車いす
ご利用とわかるものをタッチボードに提示願います。

〈電車をご利用の場合〉

最寄り駅は「JR富山駅(南口)」です。富山駅からは、タクシーまたは
バスをご利用ください。(タクシー利用の場合は約20分、バス利用の場合
は約30分かかります)。

〈バスをご利用の場合〉

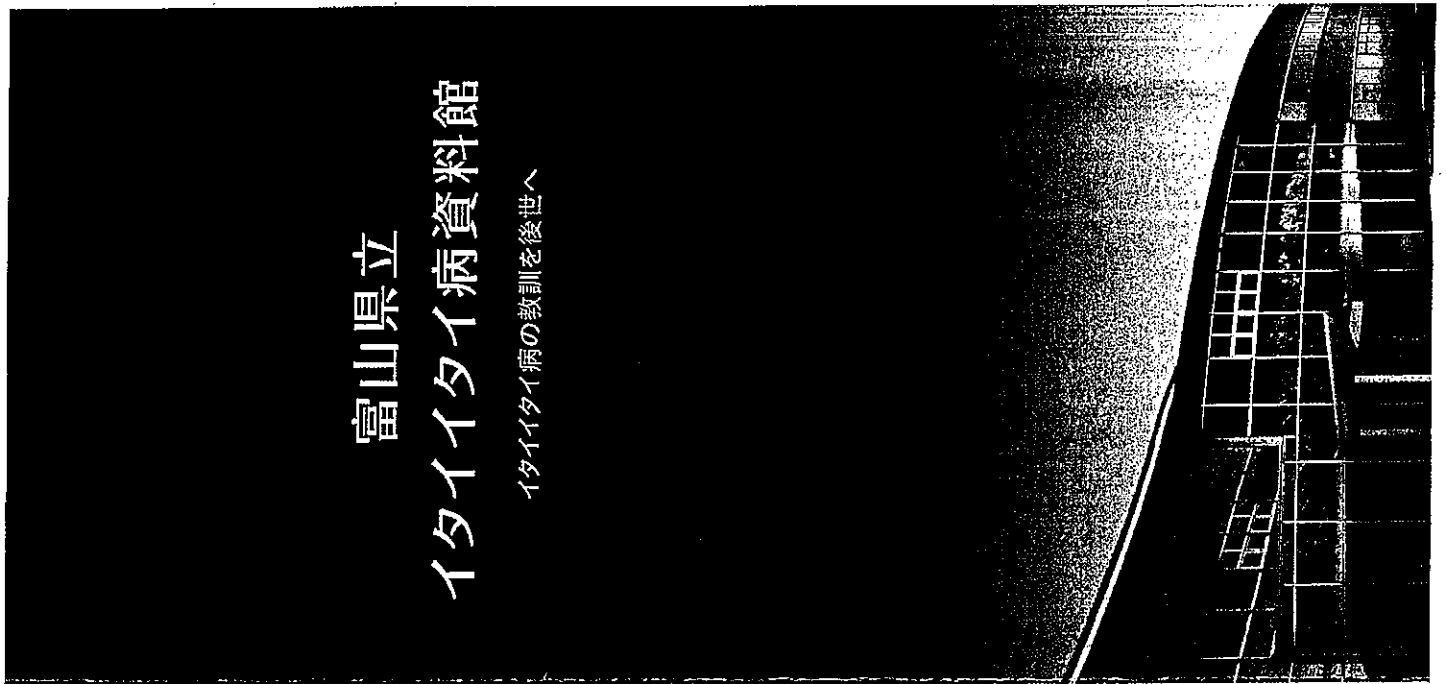
- ① 健康パーク前 停車
JR富山駅前(南口)バスのりば～「富山空港/八尾崎町/総合運動公園」
方面(乗車時間約30分)
- ② 健康パーク最寄りのバス停「中坪口」(乗車時間約30分+徒歩約10分)
- ③ 健康パーク最寄りのバス停「下熊野」(乗車時間約25分+徒歩約15分)

富山県立イタイタイ病資料館

〒939-8224 富山県富山市美杉151番地(「とよま健康パーク」内)
TEL: 076-428-0830 FAX: 076-428-0833
<http://itaitai-dis.jp>

富山県立 イタイタイ病資料館

イタイタイ病の教訓を後世へ



館内の案内

2F

資料閲覧室

イタイタイ病のほか、環境や健康などに関する図書や映像がご覧になれます。

交流学習ルーム

団体を対象としたガイダンスや語り部講話などに利用します。80名の収容が可能です。2室に分割できます。
*交流学習ルームは、貸出し(有料)も承っています。

イタイタイ病の教訓を活かし 美しい水と豊かな大地を未来へ

イタイタイ病は、富山県の神通川流域で起きた日本の四書病の一つで、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶからこの名が付いたといわれています。この病気は、時代頃から発生し、神岡鉱山(岐阜県飛騨市)からされたカドミウムが神通川の水や流域を汚染し、このや汚染された農地に実った米などを通じて体内に入るで引き起こされました。

はもちろん、その家族や地元住民たちもつらくて苦日々が長い間続きました。裁判では住民側が勝訴しましたが、患者救済や健康調査は今もお行われています。された環境については、被害の克服に向けた長年にわたる努力によって、今では美しい水と大地がよみがえります。

イタイタイ病資料館は、子どもたちをはじめ、幅広い年代の人々が、
「イタイタイ病の恐ろしさ」を知り
「克服の歴史」を学び
「長一人ひとりが『環境と健康を大切にす
ライフスタイルの確立や地域づくり』に取り組み
につなげる未来指向型の資料館をめざしています。

イタイタイ病出来事年表 メッセーコーナー

年表でイタイタイ病の歴史をふり返りながら、展示で感じたことをメッセーとして紹介します。

展示室

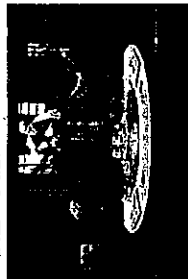
昔の暮らし、被害の発生から現在までの動きを時間の流れに沿って紹介します。

⑥環境・エネルギー先端県の実現をめざして
環境と健康を大別にする行動のヒントとなる最新の環境施策などを紹介します。

エントランス

床面の水系図や神通川の大型イメージ写真で皆さんを展示室へ誘います。

①イタイタイ病の発生と被害の実態

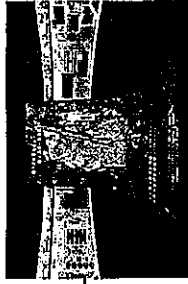


稲の生育不良などの異常、原因不明の病気にかかった患者や家族の苦しみたどります。

①神通川とともにあった暮らしの原風景

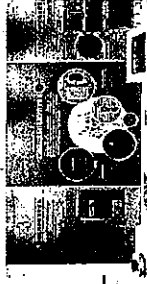


かつて神通川流域で川の水を利用して生活していた頃の暮らしをふり返ります。



汚染された神通川や農地を元の美しい姿に戻してきた努力や成果などを紹介します。

④流域住民の健康を守り、患者を救う



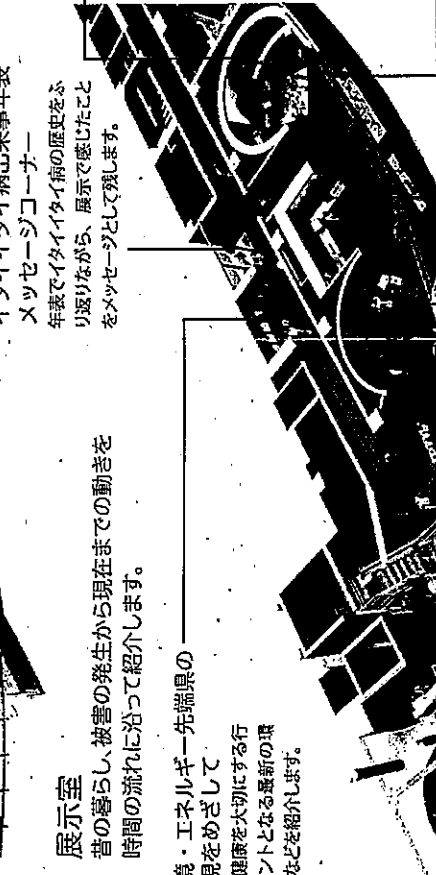
患者認定の流れや条件、流域住民の健康調査の実施状況等をわかりやすく伝えます。

③原因究明、健康と暮らしを守る動き



原因究明、被害住民による裁判から原因企業との取決めに至る歴史を紹介しします。

⑤美しい水と大地を取り戻してきた環境被害対策



観光振興について（氷見市）

北陸新幹線開業に伴う観光振興

富山県は熊本県の取組を勉強している。

氷見市の産業 ①農業（ハト麦） ②氷見牛（カレー・コロッケ） ③漁業（寒ブリ）

観光の課題

- ・冬季の観光宿泊者が少ない。

【取組】

- ・地域の農林水産業食品産業の発展
- ・国際観光の推進
- ・旅行会社への働きかけ
- ・新幹線からの二次交通の整備
- ・公共交通等を活用した周遊プラン
- ・世界でもっとも美しい湾クラブへの加盟

【感想】

- ・氷見市として宿泊客を増やすことの難しさがある。
- ・富山県との連携の中で観光産業を考えている。
- ・水俣市は新幹線からの二次交通をどうするのか。

ご当地ヒーローによる食育活動について（七尾市）

平成19年に農業へ参入（5月4.8hの耕作放棄地で）

現在は62hに増やし、生産した野菜類を600t(70%)スギヨ製品で残り30%を学校給食や飲食店などで使用。

スギヨ仮面（ヒーロー）・イヤヨヤダー（悪役）で食育活動を行っている。

【感想】

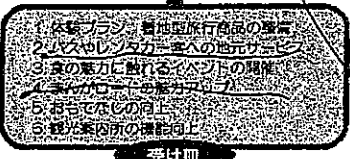
- ・民間企業が農業に参入して成功したのはなぜか勉強になった。
- ・参入当初に地元農家とのコミュニケーションを大切にされた。
- ・知らないことを農家に聞き取り入れた結果最初から生産に結びついた。
- ・ヒーローを作り地元の子供たちの食育活動に貢献している。

平成27年度 観光戦略の基本的な考え方と方向性

新幹線開業により北陸に注目が集まり、旅行者の増加、また観光情報の検索頻度が高まると考えられます。氷見市としては次の取り組みを重点的に行い、攻めと守りの両面に対策を講じていきます。

攻める

1. 新幹線沿線都市での観光PR
2. テレビや新聞、雑誌による情報発信
3. SNSなどソーシャルメディアによる情報拡散
4. 観光ウェブサイトの一新
5. プロモーションムービーの制作
6. 新パンフレット、ポスターの活用
7. 旅行商品の造成
8. モニターツアーの実施
9. コンベンション、教育旅行の誘致



北陸新幹線開業を迎え、好機と変化を予測しながら、戦略的施策を講じて柔軟にスピード感のある観光施策を展開していく。

- ① 情報発信の強化と検索の受け皿づくりを進める。
 - ・ 情報発信では、北陸新幹線沿線の主要都市に向けて積極的な観光PRを展開する。
 - ・ 情報づくりでは、観光ウェブサイト「きときとひみとことごと」の一新、プロモーションムービーの制作、新パンフレット・ポスターの活用を行う。
 - ・ これらにより、見るものに行ってみたいと思わせる演出と、グッとくる状況を作り出す。
- ② 氷見の魅力を体験できる受け皿づくりを進める。
 - ・ 旅の感動づくりでは、印象に残る体験プランの用意、客の魅力に触れる「ひみ氷見グルメ博」の拡充開催、まんがロードの魅力アップなどを行う。
 - ・ 旅の快適さづくりでは、おもてなし研修による接客力の向上、バスなどの2次交通の整備、Wi-Fiやカード決済の推進などを行う。
 - ・ これらにより、観光としての価値を上げ、氷見ファンづくりを進めていく。

PR
PR

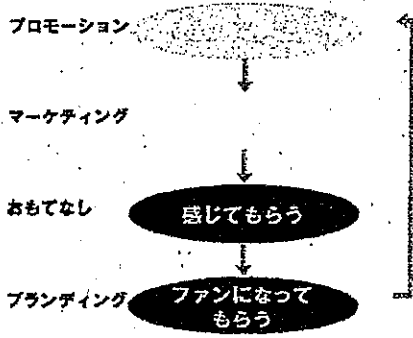
PR
PR
PR

魚食文化をリードする氷見

氷見の地で長年培われた漁師町の風土、文化をベースにしなが、日本を代表する「魚食文化」の担い手として、将来に向けて魚食を進化させていく。本当においしい魚がある町、一度は訪ねたい町になる。

- これからのターゲット像
 - ・ 本物の魚のおいしさを知らない人
 - ・ おいしいものに対する感覚が高い人
 - ・ 自分の体験をワンランク上げたい人
- 未来の姿
 - ・ ローカルな魅力とグローバルでスタイリッシュな感覚が融合した町
 - ・ 本物のおいしさに出会い価値観が変わる町
 - ・ どこよりも魚を楽しんでいる町
 - ・ 生きていることを実感する町
 - ・ 若者や子供が楽しめる町

観光地振興の施策フロー



1. 不採改善型の事業...観光Webサイト制作、プロモーション映像制作、旅行商品の整備
2. 未採投資型の事業...地域ブランディング、顧客分析-動機調査、おもてなしの向上、観光プラットフォーム

水見市観光振興事業費 観光マーケティング費

平成27年度当初予算額 1,360千円

- 水見への交通アクセスは便利とは言えない状況である。
- 北陸新幹線開業後は高岡からのアクセスがさらに不便になる。(新幹線と水見線が接点しない)
- 新幹線開業および能越道七尾区画化にともないレンタカーを始め自動車での流動が増加すると考えられる。
- 一方、能越道の開通により水見が通過地となる懸念が大きい。
- 新高岡駅から水見への2次交通の確保が課題である。
- 自動車利用者を水見へ誘導するための施策が必要である。
- 水見市単独ではなく、近隣の自治体またレンタカー会社やJR、航空会社との連携が必要である。

アクセス環境の向上と貢献付けによる水見への誘導

交通機関との連携によるアクセスの活性化

- 新高岡～水見間の定期観光バスへの運行支援
 - コースに遊業交流施設「魚々座」を入れる
 - 最少催行人数を2名に設定し、少人数から利用しやすくする
 - 自動車利用者を呼び込むための対策事業
 - レンタカー会社とのタイアップキャンペーンや利用者への特典
 - 近隣市町村との連携による広域早送MAP等の作成等
- (予算内容)
- 新高岡駅～水見定期観光バスへの運行助成金(360千円)
 - レンタカー等利用者誘致促進費(1,000千円)

・アクセスの選択肢が広がる ・新幹線停車駅から水見への誘客 ・広域連携の促進

北陸新幹線開業後の水見までの主な2次交通

バス路線	乗降駅	乗降駅	路線名称	運行会社	所要時間	運賃	運行日	運行会社
JR水見線	新高岡駅	JR水見駅	路線名称	JR西日本	30分	350円	毎日	JR西日本
富山ゆりかぜバス	富山駅前	ひみき屋敷	新深きつと市場	路線バス	1時間25分	1,600円	毎日(平日1往復、休日3往復)	富山地域
わくわくライナム	新高岡駅 新高岡駅	初音温泉	ひみき屋敷	路線バス	1時間44分	水見まで500円	土・日・祝日	加越能バス
高岡～水見ツアーバス	新高岡駅 新高岡駅	ひみき屋敷	温泉寺 魚々座	貸切バス	約3時間	2,000円 観光付	土・日・祝日	西部観光

運行費助成の理由

- 新幹線開業後、新高岡駅と水見を結ぶ2次交通である。
- 水見を目的地としたものである。
- 国主権龍寺の見学と水見の食事をセットし、北陸旅行の入門編としてわかりやすいパッケージである。
- 遊業交流施設「魚々座」に停車する。
- 助成により最少催行人員を2名にでき催入のお客が利用しやすくなる。
- (注) 観光販売システムズを通して全国の旅行会社に販売する。
- 各地観光行商品販売サイト「V.I.S」(T.富山県)に掲載。



●水見市助成金 360,000円 (3,000円/1運行 × 120回/年)

自動車利用客を呼び込むための対策事業（1,000千円）

- ・レンタカー会社とのタイアップキャンペーンや利用者への特典
- ・近隣市町村との連携による広域周遊MAP等の作成等

北陸新幹線開業に伴い、停車駅からのレンタカー利用が増加すると予測されている。

日経トレンディが発表した「2015年ヒット予測ランキング」で3位にランクインしたのが「北陸トライアングル」と呼ぶ金沢～能登～富山を回るルート。加えて白川郷・高山のまで含めたルートが注目される。

能登道七尾延伸の計画は周遊を促進するとともに、一方では氷見が通過地となる危険性が十分にある。

増加する自動車運動を氷見に呼び込むための対策を近隣自治体の協力も得ながらレンタカー会社等に営業を行っていく。

1. 連携を想定する近隣自治体（七尾市、羽咋市、高岡市、南砺市）
2. 営業を予定するレンタカー会社
 - ・新高岡駅（オリックスレンタカー、ニッポンレンタカー他、他）
 - ・黒部宇奈月温泉駅（トヨタレンタリース、日産レンタカー、他）
 - ・富山駅前と会沢駅前のレンタカー会社
3. 告知媒体（西ナビ、トランパール、るるぶFREE金沢、るるぶFREE富山など）

北陸トライアングルMAPの作成

- ・「世界で一番の海を走る」（世界でひとつだけ千畳浜なぎさドライブウェイ、世界で最も美しい湾クラブの氷見海岸）
- ・ビューポイント（夕日の千畳浜 VS 朝日の氷見海岸）、人気の直売所
- ・おすすめランチ（割引クーポン）



日経トレンディ、2015年ヒット予測ランキング3位



観光空港キャンペーン

真珠島&ANA

氷見の魅力を最大限に活かす観光動画の制作



・氷見の観光プロモーションムービーがない。



- ・撮影機材の小型化、またSNSの進展により誰でもCMを容易に作成しWeb上で発信ができるようになった。
- ・トレインチャンネルや街頭ビジョン、Youtuberなどの出現により動画の影響力が高くなっている。
- ・映像は玉石混交の時代。高度のCGか、ドキュメンタリー映像が好まれる。



- ・氷見のPVがなく、観光プロモーション時に困ることが多い
- ・映像は一般的に制作費が高く、また交通広告も莫大な広告費がかかる。テレビCMは苦うまでもない。
- ・全国で観光ビデオが氾濫している。イメージビデオでは旅行につながりにくい。

実用でありながら広く長く活用できる動画の制作



氷見の魅力を伝える動画と画像を集積しプロモーションに活用する

①「ひまの日々」人々の暮らしの物語ムービー制作

・平成27年度は、民宿等の料理人、女将が語る自店のこだわりや日常を映像化し、氷見の魅力をあぶり出す。

②観光画像アーカイブ

・アマチュア写真家を中心に写真を募りライブラリー化する。不足のものは撮影下ろす。

（予算内訳）

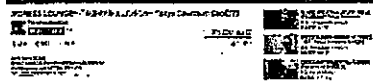
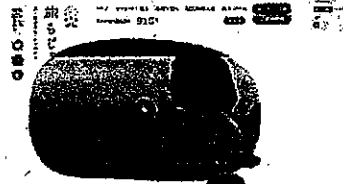
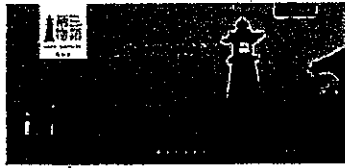
- 氷見のプロモーションムービー制作費(3,000千円)
- 氷見の写真収集アーカイブ費(500千円)



・認知度の向上 ・パブリシティ効果 ・サービスの向上 ・おもてなしの気運醸成

氷見のプロモーションビデオ (イメージ)

氷見に暮らす人々の日常を描き、見るものがその場で会話をしているような感覚を生じさせる演出。昔や若い、遠慮を感じながら旅のイメージを盛り上げていく。



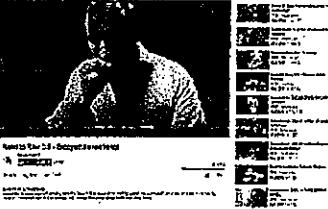
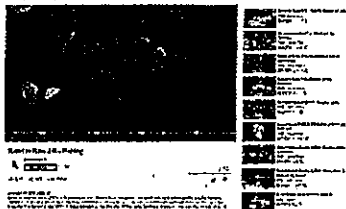
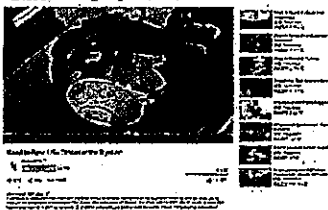
平成27年度は「民宿・旅館」の人々を描く

宿泊総合パンフ「氷見味わいの森」は、外観写真と施設のスナップだけが並んでいる。高床長床、宿泊旅行そのものがハリであった時代の名残であり、家電製品売り場と同じ。国内も海外も十分に旅行を堪能した都市生活者には響かない。料理写真が同じように並んでいるものもため、どれも同じに見える。

「民宿」という言葉の感性を出すこと。トイレなど不利な面を隠ししながらも「氷見の民宿」らしい独自性を言葉で伝えなければならない。主人の料理にかけるこだわり、長年究の女将のおもてなし。「刺身もいいが、うちの平物が自慢だ」「毎日契約農家から野菜を仕入れている」「ご飯にはこだわる」「鍋が自慢だ」「活けてある山野草は女将が深山で取ってきている」「遠慮で氷見の民宿を聴かせられる」「田舎臭いと云われてもうちはやっぱり用度が完りだ」

客先の思いをどうひとつ丁寧に伝えることから個性の違いが現え、お客様も喜びが溢れ出てくる。紙媒体では情報に限界がある。短編ムービーだからこそ伝えられる。

参考動画 「Road to Raw」 Cook It raw Ishikawa



旅行報告書

会派名 政進クラブ

会派代表者 中村 幸治

平成 28年2月1日

旅行者氏名	旅行者氏名
中村 幸治	
福田 齊	
田口 憲雄	

下記の用務のため旅行しましたので報告いたします。

1 期間 平成28年1月26日(火曜日)から

平成28年1月28日(木曜日)まで

2 旅行先及び用務の概要

旅行先	用務の概要
鹿児島市	・環境イノベーションフォーラム参加
熊本県益城町 同 山鹿市	・くまもと産業支援財団(起業・創業支援、バイオ関連支援等) ・山鹿市バイオマスセンター(家畜排泄物処理等)視察
福岡県北九州市	・北九州エコタウン視察

出張報告書

水俣市議会

議長 福田 斉 様

政進クラブ 田 口 憲 雄

政進クラブ会派視察について（報告）

標記について、平成28年1月26日（火）から28日（木）にかけて、鹿児島（環境イノベーションフォーラム）、並びに熊本市（くまもと産業支援財団、山鹿バイオマスセンタ）、北九州市（北九州エコタウンセンター）を訪問しましたので、報告します。

なお、詳細については別紙の通りです。

鹿児島市

九州経済産業省、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）主催
「環境イノベーションフォーラム in 鹿児島」視察復命

日 時：平成28年1月26日

場 所：鹿児島市東千石町1-38

鹿児島商工会議所アイムホール

今回参加した「環境イノベーションフォーラム in 鹿児島」は、毎年、九州経済産業省、九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ（K-RIP）が主催し、鹿児島県が後援する、南九州でポテンシャルの高い一次産業の更なる活性化のため、今話題の「一次産業×環境」技術を紹介するマッチング事業が開催されたので、参加した。

特別講演では、(株)ワイビーエム 技術本部長 増本輝男氏による、「小さな泡が世界を変える～ウルトラファインバブルの可能性を探る～」と題して、特別講演がなされた。

ファインバブル（微細気泡）、ウルトラファインバブル（ナノバブル）は日本発の技術として農業、養殖分野での成長促進や魚介類の鮮度保持、洗浄、排水処理などの幅広い分野での応用が期待されており、実施例についての紹介がなされた。

その後、事例紹介が5件紹介された。

1) (株) 富士通九州システムズの「畜産—畜産業における繁殖性向上技術及びそれに伴う生活環境の改善」として、繁殖に必要な発情発見や、分娩の様子をリモートで監視する仕組みを提供することで、夜間や休日の作業軽減を図り、経済効率及び畜産業を営む生活環境の改善を支援する内容であった。

2) (株) ニチメン工業の「畜産～省エネに貢献～全自動子豚保温装置」では、子豚の発育日数に応じて子豚体温を利用しながら適切な箱内温度を自動調整する省エネ型の子豚保温箱について紹介された。子豚と母豚の豚舎における体温が異なることから、これまで別環境で生育していたが、保温箱を母豚の豚舎に設置できることから、省エネ効果が期待できる。

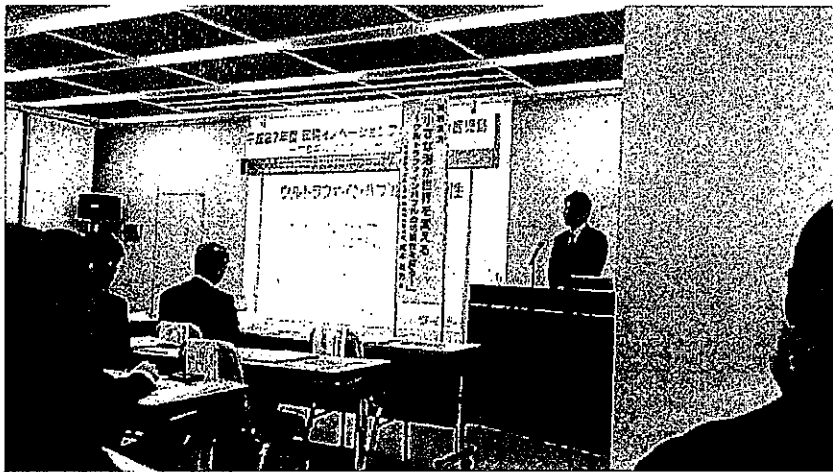
3) (株) 西海養殖技研「水産 - 物理的**海棲生物付着防止塗料**を活用した**環境保全型養殖技術**」として、養殖海底環境の自浄能力に負担をかけない技術として**海棲生物が付着しない塗料**を使用した養殖技術が紹介された。

4) 交和電気産業(株)の「水産 - 省エネ型大光量集魚 LED 照明」は、魚群行動に対する発酵スペクトル特性及び発光量との関係を調査・解析したうえで開発した集魚用 LED 照明及び集魚用 LED 照明を用いたふいルド調査結果が紹

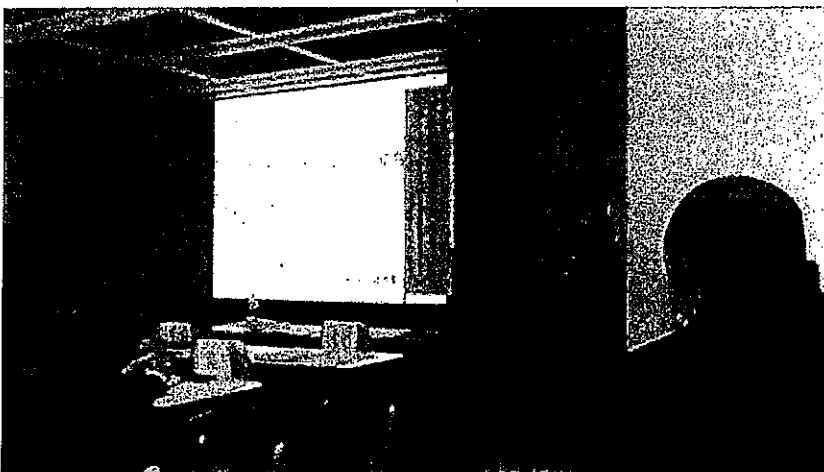
介された。この企業は、出水市の企業である。

5) 鹿児島工業高等専門学校の「農業 - 黒糖焼酎粕のキクラゲ菌床利用による島内循環システムの構築」として、奄美群島で発生する地域副産物の場ガスを用い、黒糖焼酎粕をきのこ培地に活用し、新産業を創出する。

上記の特別講演を始め5事例を聞き、研究の視点が企業内で課題となっているものに向けられ、解決することで次の技術開発へと向かっていることを再認識した。



主催者挨拶 九州経済産業局
資源エネルギー環境部 阿由葉 部長



特別講演 株式会社 ワイビーエム 増本 技術本部長

上益城郡益城町
公益財団法人 くまもと産業支援財団 視察復命

日 時：平成28年1月27日

場 所：上益城郡益城町田原 2081-10

対応者：事務局長 厚 地 昭 仁

総務部長 嘉 永 秀 俊

主事 那 須 雄 介

くまもと産業支援財団は、昭和58年にテクノポリス法が制定されたことを受け熊本テクノポリス財団として設立され、その後、「熊本テクノポリス財団」、「熊本テクノポリス技術開発基金」、「熊本中小企業振興公社」の3団体が、平成13年に「くまもと産業支援財団」として統合され、現在に至っている。

熊本産業支援財団の予算規模は、基本財産は6億円で50%（熊本県）、他は各市町村が負担、基金として77億円で12億円（国）後は市町村や企業が拠出している。職員は77名で県から6名の出向、プロパー16名、任期付き職員が55名となっている。

事業内容として、①経営相談・専門家派遣事業、②熊本県よろず支援拠点、③くまもと夢朝鮮ファンド、④ビジネスマッチングファンド推進事業、⑤人材育成、⑥企業家・創業支援、⑦産学連携推進、⑧バイオ関連産業の支援等を実施している。

【質疑】

Q、水俣においては、環境アカデミア構想があり、智の集積を図るとしているが、大学等との連携で注意すべきことは何か？

A、企業が求める技術を、どの大学のどの先生が持っているかのリサーチが必要、水俣ではテクノセンターが行っている。

Q、テクノセンターを財団にするとしたら、どうしたら良いか？

A、現状財団の基金の運用益だけでの運営は厳しい、財団化は検討されたほうが良いと思う。

山鹿市

山鹿市バイオマスセンター 視察復命

日 時：平成28年1月27日

場 所：山鹿市鹿本町高橋 690 番地

対応者：山鹿市バイオマスセンター

(株) ガルテン

所長 神 生 誠

山鹿市バイオマスセンターは、山鹿市が事業主体で事業を実施し、指定管理者として、(株) ガルテンが運営を行っている。

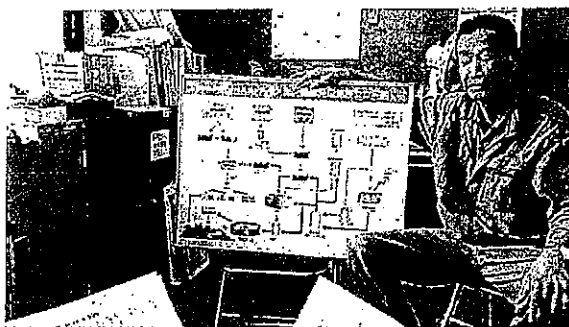
バイオマスセンターは、家畜排せつ物の適正処理と可燃ごみの減量等による環境負荷の低減を図るために、10億円(2分の1補助)で平成17年度供用開始され、4名で運用している。

環境問題の課題として、①家畜糞尿処理における、臭気公害の発生や野積み、素掘りによる地下水、公共用水域への水質汚染の懸念、②可燃ごみの量の増加による、焼却処理に伴う化石燃料の大量消費、温室効果ガスの発生、③下水汚泥処理の現状(5地区の集落排水)汚泥処理費の高騰や埋め立て処分による環境負荷などが挙げられた。

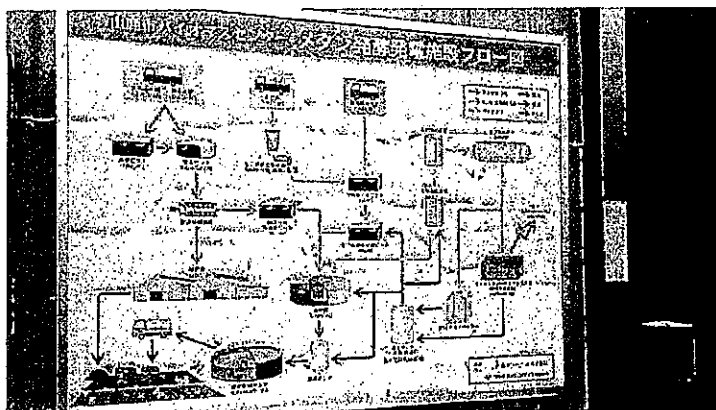
家畜排せつ物処理におけるメタン発酵により発電を行う施設であるが、現在は発電機に不具合(韓国製でメンテナンスに多額の費用を要することから)で発電を行っていない。

発酵後に発生する消化液の処理は、臭気の問題が有り利用は少ない。堆肥については足りないくらいである。JA中央会の堆肥部門で有料堆肥として表彰を受けている。

今年度は、台風の影響で施設に被害が出るなど、今後の維持管理が大変である。



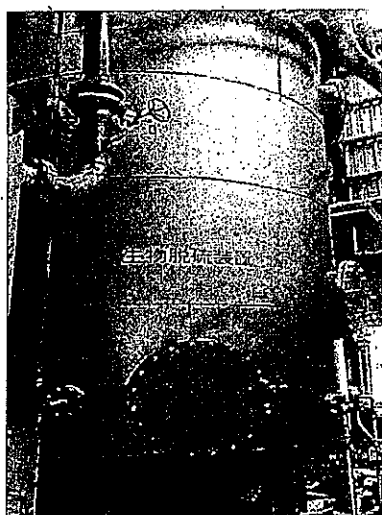
(株) ガルテン 所長 神 生 氏



山鹿市バイオマスセンター メタン発酵発電施設フロー図



堆肥化施設内（搬出前ピット）



生物脱硫装置

北九州市

北九州エコタウンセンター 視察復命

日 時：平成28年1月28日

場 所：北九州市若松区向洋町10-20

対応者：北九州エコタウンセンター

ひびき灘開発(株)

五島千輔

北九州エコタウンは、あらゆる廃棄物を他の産業分野の原料として活用し、最終的に廃棄物ゼロにすること(ゼロ・エミッション)を目指し、循環型社会の構築を図ることを目的にしている。北九州では、環境・リサイクル産業の振興を柱とする「北九州エコタウンプラン」を策定し、具体的な事業を実施している。推進に当たっては、「北九州エコタウンプラン実施計画」を策定し、基本的な取り組みの方向を定め環境政策と産業振興政策を【統合した独自の地域政策を展開している。

北九州市の環境産業振興の戦略を立て、①教育・基礎研究部門においては、「北九州学術研究都市」として、国立・公立・私立の大学・大学院や研究機関が一つのキャンパスに集まり、互いに連携し「環境」と「情報」をテーマとしてさまざまな研究開発や人材育成を進めている。

②企業、行政、大学の連携により、最先端の廃棄物処理技術やリサイクル技術を実証的に研究する機関を集積し、実証研究エリアを設定し、各大学や企業の実証研究がおこなわれている。③事業化として、総合環境コンビナート・響リサイクル団地は、環境産業の事業化を展開するエリアで、各事業者が相互に連携し、ゼロ・エミッション型の環境産業コンビナートかを図ることにより、資源循環拠点を目指している。

エコタウンセンターで概要を聞いた後、北九州空き缶リサイクルステーションと建築現場や工場から排出される廃木材と不要材料として出た廃プラスチックを配合したリサイクル建材を作っているECO-MWOODを視察した。



北九州エコタウンセンター 対応者と名刺交換



天ぷら油回収ボックス



廃木材と廃プラスチック原料とし混合して再生複合材を作る過程の説明
ECO-MWOOD

以上報告します。